



家族連れなどでにぎわうメイン会場

“はしる・のる・さわる”をテーマに、試乗を中心とした体験型のモーターショー「TSUKUBAのりもの共和国2014」が4月6日、筑波サーキットで開催され、県内外から家族連れやモーターファンなど1,880人が集まりました。

一昨年に続いて2回目となった今回は、クルマの面白さや最新技術の良さを体感できるよう、ぶつからないクルマや電気自動車、水陸両用8輪車などの試乗会をはじめ、親子のクルマ教室、サーキットコースでレーシングカーが猛スピードで走る中を大型バスに乗って見学するサーキットサファリなどが催されました。



写真入りの運転免許証に喜ぶ参加者

子どもたちの人気を集めた「JAF子ども安全免許証コーナー」では、交通安全のクイズに答えて写真入りの運転免許証を手にした子どもたちが「カッコいい」「速く運転したい」などと興奮気味に話してくれました。

筑波サーキットでクルマの魅力を感じ 第2回TSUKUBAのりもの共和国2014

野山に出て「小さな春をみつけよう」と、わらべうたあそびランドが主催した野外遊びが3月29日、小貝大橋東側の堤防や河川敷で行われ、県内外から親子連れ25名が参加しました。

河川敷の林に入ると、団体メンバーからセリやノビル、カンゾウ、カラシナなどの説明を受けながら野草摘みを実践。草の中を歩くと跳ね出すカエルを追いかける子どもたちも見受けられました。

東京都江東区から参加した小学2年の高橋央侑くんは「カエルが大好きになっちゃった」と捕まえたカエルを大事そうに見せてくれました。

昼食時には、団体メンバーが手づくりしたセリやヨモギの天ぷら、菜の花の胡麻和えなどが配られ、参加者全員で春の味覚を堪能しました。



春の野草や生き物にふれあう参加者

春の訪れを体いっばいで感じる 小さな春をみつけよう

桜の花びらが風に舞い始めた砂沼湖畔で4月6日、「第43回下妻砂沼桜まつり」が行われ、市内外から約2,500人が来場しました。

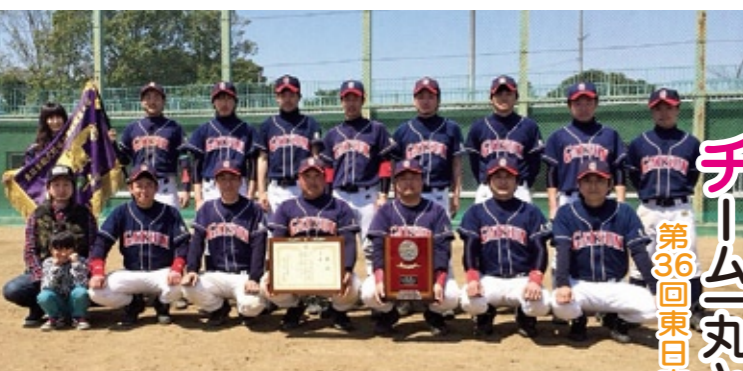
砂沼南岸会場の特設ステージでは、ものまねショーやお囃子の演奏、来場者が参加するビンゴ大会で盛り上がり、観桜苑会場では満開の桜並木のもとで開かれた「砂沼さくら市」と題するアウトバザーや陽だまりマルシェが人気を集め、にぎわいを見せていました。

常総市から親子で観桜苑会場に来場した30歳の女性は「桜が満開でとてもきれいだ。砂沼はジョギングコースがあるので、この桜の中を走ったら気持ちいいでしょうね。マルシェには、手づくりでかわいいものがたくさんあって楽しい」と話が聞けました。



満開の桜のもとでにぎわう「砂沼さくら市」(観桜苑で)

満開の桜に迎えられて 第43回下妻砂沼桜まつり



優勝旗を手にした「ガッツ」メンバー

県内4地区から予選を勝ち抜いた16チームが集まり、下妻市と結城市を会場に行われた「第36回東日本軟式野球大会(2部)茨城県大会」(4月5・6・12日)で、市内の「ガッツ」チームが優勝を果たし、全国大会への出場権を獲得しました。

市軟式野球連盟では、市内社会人登録のチームが県大会で優勝するのは初めての快挙。

5月23日から岐阜県美濃加茂市近隣を会場に、北海道から三重県までの東日本ブロック28チームで行われる全国大会を目前に、稲吉正樹監督は「全国大会でもチームのモットーである『礼儀正しく楽しい全員野球』で一戦一戦を大事に頑張りたい」と意気込みを語りました。

チーム三丸となって全国大会出場へ 第36回東日本軟式野球大会(2部)茨城県大会優勝



緊張して入学式に臨む新一年生(下妻小学校)



新入生代表による誓いのことば(下妻中学校)



希望に胸ふくらませて 市内小中学校入学式

市内各小・中学校で4月7日、入学式が行われ、小学校381名、中学校441名の新一年生が新たなステージでスタートを切りました。

下妻小学校では、新入児呼名で一人一人名前を呼ばれると全員が元気に返事し、来賓あいさつの交通安全の呼びかけにも「はい」と答えてしまうあどけない姿がありました。

下妻中学校では、新入生205名を代表した落合千尋さんが「友達をたくさんつくり、勉強と部活動の両立を目指します。生徒会活動にも取り組みたい」と力強く誓いのことばを述べました。

緊張の面持ちの新一年生は、新しい環境に不安を感じながらも、これから始まる学校生活に希望で胸をふくらませていました。

火縄銃の迫力と勇壮な武者行列に圧倒

第8回多賀谷時代まつり

下妻の地を治めた戦国大名・多賀谷氏。その城跡となる多賀谷城跡公園で「多賀谷時代まつり」が4月13日に開催され、県内外から訪れた約4,000人の来訪者は、見どころの甲冑姿の武者大名行列や火縄銃の砲術演武などの戦国絵巻を楽しみました。

今年は、福井県あわら市から「多賀谷左近三経公奉賛会」の会員27名が「結城秀康と多賀谷左近のふるさとを訪ねる旅」と題したツアーで下妻市を訪れ、まつりを見学しました。



火縄銃の轟音が会場に響き渡ります

多賀谷三経は、下妻多賀谷氏ゆかりの人物で結城秀康に仕え、結城氏が関ヶ原の戦いの後、現在の福井県福井市中心に国替えとなった際にこれに従い、福井県あわら市周辺



勝ちどきをあげる稲葉・下妻市長(左)と橋本・あわら市長(右)

主となった人物です。また、このツアーを契機に、あわら市の橋本達也市長と坪田正武副議長も下妻市を訪れ、まつりに参加し、交流を図りました。

式典では、橋本・あわら市長が「三経公の縁では実家に参った感じ。これを機に交流を図っていきたい」とあいさつ。武将姿に着替えた橋本・あわら市長は、出陣の際に「打ちあわび」「勝ち栗」「昆布」の三品を肴に酒を三度づつ飲み干す儀式の「三献の儀」を執り行い、稲葉・下妻市長が「エイ、エイ、オーッ」と勝ちどきをあげて、まつりを盛り上げました。